

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立朝日小学校
1 前年度 評価結果の概要	①【学校教育目標】…学校教育目標、目指す児童像「きらり12」を基盤とした自己有用感づくりで自分に自信が生まれ、自主自立的な態度につながった。今年度も自己有用感を高める4つのポイントの実践を徹底させ、課題の改善、問題行動の未然防止につなげたい。 ②【特別支援教育の充実】…専門性を高めるための研修を多く重ね、外部との連携を密に取り支援に生かすことができた。特別支援教育が充実し、児童の落ち着きにつながった。 ③【学力の向上】…ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを校内研究の柱とし、授業改善を図ったが、毎時間の目標達成のために一斉指導、個別指導、協働的な学びをさらに追究していきたい。
2 学校教育目標	自己有用感をもって主体的に学ぶ朝日っ子の育成 ～校訓「元気で勉強 みんな仲よし」～
3 本年度の重点目標	①全員参加のわかる授業(基礎学力の定着) ②志を高める教育活動の推進 ③特別支援教育の充実 ④感謝と思いやりの心の育成 ⑤いじめの未然防止と早期発見対応 ⑥運動週間の改善や定着化 ⑦危険回避能力の育成(防災教育) ⑧愛郷心の育成 ⑨幼保小連携 ⑩教職員の資質向上と業務改善(働き方改革)

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童75%以上。 ○「電子黒板やクロームブックを活用し、わかりやすい授業づくりを行っている」と回答した教員100%。	「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.12」を踏まえた授業作りに取り組み、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定する。 ・一人1台端末を効果的に活用した授業作りについて、校内研修等により取組の促進を図る。						
	○どの子も楽しく「わかる」ことができる授業づくりの実践～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり～(校内研究の充実)	○「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを心掛けている」と回答した教員100%。 ○「勉強がわかる、できる」と回答した児童80%以上、進んで学習に取り組むことができる児童が70%以上。 ○「自分の考えを持って進んで表現できる」と回答した児童が65%以上。	「ユニバーサルデザイン3つの視点による授業づくり」チェックリストと「ユニバーサルデザインの指導のチェックリスト」を作成し、活用することで、日常の授業改善を図る。 ・基本的学習習慣の定着や自主学習の奨励、学習環境整備など、学習を支える土台作りを行う。 ・学習の振り返りを大事にし、事後の感想や自分の考えをまとめる時間の充実を図る。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員100%。 ○「思いやりの心をもち人のために進んで動いたり、協力したりできている」の項目で「できる」と回答した児童85%以上。	・自己有用感を高める4ポイントの実践・命や人権について考える学習の充実(平和集会や人権週間の内容の充実)。 ・グリーン録音活動やボランティア活動の充実・ふれあい道徳や道徳の授業の充実を図る。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と回答した児童90%以上。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	いじめの定義について全職員で再確認し、全学級共通の教材を活用し(生徒指導部作成)、いじめに関わる道徳の授業を行う。(いじめを生まない風土作り) ・なかよしアンケートを定期的に行い、いじめの早期発見を行うとともに、日常観察によりいじめと疑われる事案を発見した場合は、すぐに学年間で共有し、丁寧に聞き取り、対応する。(学年主任・生徒指導主任・教頭・教務一・校長とチームによるライン対応を行う。)						
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・児童と運動のかかわりを深める体育科学習の充実と外遊びの奨励。 ・委員会活動によるスポーツチャレンジの実施と学級での取組の充実。						
	○危険回避能力の育成	○「災害に備えた防災教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%。	・安全・防災教育年間計画を作成し、適切な時期に効果的な安全・防災教育を行う。 ・計画した安全・防災について、それぞれ授業用のパワーポイントを作成する。そのことで、全ての教室で共通実践がなされ、さらに指導が毎年蓄積されるようにし、全職員、全児童の安全、防災に対する意識の向上を図る。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・全職員の平均が45時間以内になるよう、毎日19時までの退勤を目指し声をかけ、月末には個人の集計の結果を知らせる。 ・「グーグルフォーム」によるアンケート調査やセキネット掲示板の活用を推進する。 ・行事等について、単にコロナ禍以前に戻すのではなく、教育的価値、教育効果を考え精選してする。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○全職員での情報共有と校内支援体制の確立 ○外部機関との連携、専門研修の充実一即個別実践化	○特別支援に関する専門性が向上したと答えた教員85%以上 ○情報共有を定期的に行う(全職員月2回、特別支援チーム月1回)。	・年5回以上、特別支援教育に関わる研修会や外部機関との支援会議、巡回指導を実施し、理解したことを即実践につなげる。 ・月に1回(クラブ活動の時間)、特別支援チームの研修の場を設定し、チームで対応策を考える。 ・校内支援委員会を中心に、職員連絡会やケース会議でも定期的に全職員による情報共有の機会を設ける。						
○愛郷心の育成	○地域人材の活用と体験や交流、発信活動の充実	○「武雄市や朝日町のおさ(じまん)を知っている」と回答する児童90%以上	・あさひ公民館、あさひこども園や老人会との連携交流、など、子どもたちが主体的に地域と関わることができる学習課題を設定する。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--